

YA21232a

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2021	前期	応用実践	財務会計事例研究	嶋矢剛	15	2

授業の目的

当授業では財務会計を、「中小閉鎖会社で用いられる税務会計ではなく、上場会社等で適用されるハイエンドな制度会計」と位置付け、その実務への適用の仕方を学習することを目的とする。そのため授業では、会計基準等に係る実務上のポイント又は決算資料サンプル等を取り上げ検討する。Up to date な会計知識を現実の取引に、不正に偏向することなく論理的に適用することを指向する点で、LEC 会計大学院の教育目標【1】、【2】、【3】等を具現化する授業である。

授業の到達目標

上場企業等の経理部での決算作業をトレースし、実務上のポイントについて議論すること等を通じて、授業終了時には、実際の取引を会計基準等に落とし込むために必要となる考え方を身につけることを主な到達目標とする。

履修条件

授業で扱う会計基準等の知識に関しては、授業の各回の冒頭でその概要を確認する予定ではあるが、それでも各会計基準における論点を予め理解しておく方が授業に取り組みやすいと考える。他方、経理実務の知識に関しては特段の条件は設けない。

授業計画

回	授業内容	日程
1	オリエンテーション、上場会社の開示・決算実務の概説、 上場会社の開示制度（決算短信、有価証券報告書等）と経理実務を概説する。上場会社の経理部員の置かれている環境、決算の仕方、決算スケジュール、会計監査人への対応等を理解する。	4月3日(土) ⑥18:30-20:00
2	金融商品会計（金銭債権の評価①） 制度会計上、金銭債権を区分し、各々の貸倒実績率を算出することがポイントになる。そのためには社内の関連部署から正確な滞留情報をタイムリーに入手することが不可欠であることを理解する。	4月10日(土) ⑥18:30-20:00
3	金融商品会計（金銭債権の評価②） 前回に引き続き、金銭債権の評価を扱う。この回では派生論点として、エクセルファイルのまとめ方の工夫の仕方を考える。	4月17日(土) ⑥18:30-20:00
4	金融商品会計（子会社株式の評価①） 制度会計上、時価のない子会社株式の実質価額が低下した場合の減額の要否（回復可能性）の判断が問題となる。実務上、会計監査人と議論になることが少なくない論点であり、理論武装とそれを補強する証拠を用意することが不可欠であることを理解する。	4月24日(土) ⑥18:30-20:00
5	金融商品会計（子会社株式の評価②） 前回に引き続き、子会社株式の評価を扱う。この回では派生論点として、「株式を取得して子会社化した場合の減損判定」の事例やサンプルを紹介し、前回のケースと減損のタイミングがどのように変わるのかを理解する。	5月8日(土) ⑥18:30-20:00
6	固定資産の減損会計① 制度会計上、資産のグルーピング、割引前将来キャッシュ・フローの見積り、減損の認識の要否の判断等において、会計監査人と議論になることが少なくない。この回では会計監査人に提供する、回収可能性があることの説明の仕方を考える。	5月15日(土) ⑥18:30-20:00
7	固定資産の減損会計② 前回に引き続き、固定資産の減損を扱う。この回では派生論点として、会計監査人側での回収可能性の有無を判断のスタンスを取り上げ、それを検討する過程を監査調書例を紐解きながら理解する。	5月22日(土) ⑥18:30-20:00
8	退職給付会計① 制度会計上、自社の退職金制度を正しく退職給付会計に落とし込むことがポイントになる。退職給付債務等の算出を外部の年金数理人に委託するケースでの決算処理を、いわゆるころがし計算の調整も含めてトレースして理解する。	5月29日(土) ⑥18:30-20:00

9	退職給付会計② 前回に引き続き、退職給付会計を扱う。この回では派生論点として、会計方針を原則法へ変更したケースのサンプルや、会計監査人対応で入手する「退職給付債務計算業務に関する内部統制報告書」のサンプル等を検討する。	6月5日(土) ⑥18:30-20:00
10	資産除去債務会計① 制度会計上、原状回復費用を合理的に見積ることや適用する割引率の水準の選択がポイントとなる。また決算ファイルを、将来の資産除去時点まで使い回せるように作るためのまとめ方を考える。	6月12日(土) ⑥18:30-20:00
11	資産除去債務会計② 前回に引き続き、資産除去債務を扱う。この回では派生論点として、資産除去債務の計上を会計監査人から計上自体が漏れていると指摘されるケースを取り上げ、それを防ぐ仕組みを考える。	6月19日(土) ⑥18:30-20:00
12	税効果会計① 制度会計上、繰延税金資産の回収可能性の判断と共に、注記情報である評価性引当額を連結ベースで正確に算出することが大きな課題である。後者について、これを算出するためにはどのようなまとめ方をすればよいのかを理解する。	6月26日(土) ⑥18:30-20:00
13	税効果会計② 前回に引き続き、税効果会計を扱う。この回では派生論点として、繰延税金資産の計上額の多少について会計監査人と議論になったケースを取り上げる。繰延税金資産の回収可能性を見積もることの難しさを理解する。	7月3日(土) ⑥18:30-20:00
14	その他の包括利益の注記 制度会計上、その他の包括利益の内訳項目の注記開示が求められているが、比較的、難易度の高い分野である。そこで包括利益計算書の内容から解説するとともに、連結決算特有の実務についても解説する。	7月10日(土) ⑥18:30-20:00
15	まとめ これまで見てきた財務会計の事例に関する共通的・横断的な論点を検討する(例 連結パッケージの設計のポイント、決算の早期化、決算資料の保存の仕方)。最後に、経営者が求める決算情報と制度会計の成果物である実際の決算情報との乖離例について紹介する。	7月17日(土) ⑥18:30-20:00
試験	レポート	

使用教科書/評価方法等

教科書	オリジナルのレジメを適宜配付する。
参考書	『包括利益計算書における「組替調整」の実務(第2版)』 嶋矢剛著 中央経済社 2019年度
評価方法	期末レポート60%、出席を含む授業への貢献度など40%
その他	講義の内容及び進度は、受講者の理解度を勘案して適宜変更する。

YA21232b

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2021	後期	応用実践	財務会計事例研究	斎藤享	15	2

授業の目的

企業の実際の財務会計開示事例に基づき、その情報の多面的読み解きを通して、会社法および金融商品取引法におけるディスクロージャー制度の概要、目的、役割および実際の運用について理解する。さらに、財務会計の開示情報にまつわる様々な諸問題を、粉飾等の実例に基づき検討していく。学生自身の討議等の参加活動によって財務会計についてのさまざまな知識を体系的に身につけるとともに自分なりの思考力・判断力・表現力を身につける。

授業の到達目標

各自が自分なりの分析、研究を行い、発表、質疑応答等を実践することによって、より深い理解とコミュニケーション能力の向上を図る。

履修条件

前向きな心と素朴な懐疑心。既存の思い込み先入観を離れ柔軟に新たなる目で物事を見直す気持ちが肝要です。会計の基礎知識が必要。

授業計画

回	授業内容	日程
1	財務会計情報の開示内容と制度についての概括	10月7日(木) ⑤19:30-21:00
2	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	10月14日(木) ⑤19:30-21:00
3	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	10月21日(木) ⑤19:30-21:00
4	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	10月28日(木) ⑤19:30-21:00
5	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	11月4日(木) ⑤19:30-21:00
6	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	11月11日(木) ⑤19:30-21:00
7	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	11月18日(木) ⑤19:30-21:00
8	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	11月25日(木) ⑤19:30-21:00
9	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	12月2日(木) ⑤19:30-21:00
10	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	12月9日(木) ⑤19:30-21:00
11	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	12月16日(木) ⑤19:30-21:00
12	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	12月23日(木) ⑤19:30-21:00
13	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	1月13日(木) ⑤19:30-21:00
14	実際の財務会計事例の解説・検討・討議	1月20日(木) ⑤19:30-21:00
15	総括	1月27日(木) ⑤19:30-21:00
試	なし	

験		
---	--	--

使用教科書／評価方法等

教科書	教科書は使用せず適宜レジユメを配賦する。
参考書	「会計監査六法最新版」日本公認会計士協会編 中央経済社
評価方法	授業中の発言・発表60%、出席を含む授業への貢献度など40%
その他	